



# 人権通信

2024年度 第2号

城/内中等教育学校人権委員会・レベラス部



こんにちは、人権委員会です。11月下旬までは暖かかったのですが、12月に入って真冬並みの寒さが続いています。インフルエンザも増えているみたいですし、くれぐれも体調には気をつけてください。

さて、今回の担当は62・64・52・54ホームルームの人権委員の皆さんです。今回は5年次生の人権委員の皆さんに、人権講演会と人権意見発表会の感想を書いてもらいました。

2022年に成年年齢が18歳に引き下げられてから2年がたちました。これまでともに学んできた同級生のうち、約半分が既に社会的には「大人」であるという現実はまだ実感かわきません。

18歳になると、選挙や契約などでできることが増える一方、それに伴って自らの行動が負う責任も大きくなります。今まで学習してきたあらゆる人権問題に対しても、社会の一員としていっそう深い思慮が必要になるでしょう。

しかし「大人」の自分が始まるのは本当にその日からなのでしょうか。18年間の思考や行動は必ずその時の自分を支えているはずです。人はたった1日では変わりません。成年をまだ迎えていない方も、いつか来るその日に向けて少しずつ準備を始めてみませんか。

私は、人権HRで同和問題について学びました。学習する前は、「部落差別は今ではなくなって、昔のことになっている。知識として知っておこう」ぐらいに考えていました。しかし、学習していくうちに、「今でも結婚などになると出身地を気にする人がいる」ということを知り、驚きました。

私たちは18歳となり、これからはさまざまな決断を自分でする機会が増えます。結婚もその1つで、将来親に結婚を認めてもらうために話をする時がくるかもしれません。そういった時に、部落差別のような不当な差別や偏見で苦しむ人が出ないように社会をつくるために努力していきたいです。

- ・実際に旧同和地区に住んでいる方のお話を聴くのは、今回が初めてでした。講演を聴いて特に印象に残ったのは、住んでいる地域の地名を示しながら話されていた点です。これまでは、地名自体は出さない形でのお話ばかり聴いてきたので、はじめは少し驚きました。しかし、自分の地元に対する誇り、差別に直面したときの驚きや悲しみといった気持ちがより強く伝わってきたことを覚えています。自分が同じ体験をしたらどう感じるのか、ということを考えることができ、良い機会になりました。
- ・私はこの講演を通して、人権学習における自分の浅はかさを実感しました。今までかかつての同和地区に対して、住んでいる地域だけで差別するのは間違っていると感じていましたが、一方で心のどこかでは、今はもうなくなっているものと思ってしまっていたのです。そのため、ただ悪いことなんだなという軽い考えしか持っていませんでした。これからは、このような理不尽な差別を少しでも早くなくしていくためにも、まずは自分から変わっていこうと思いました。

- ・普段友だちと人権について語り合う機会はあまり多くないので、意見発表会を通して友だちの思いや考えを聞くことができ、とても有意義な時間になりました。一人一人が人権について考えつづけることが、誰もが暮らしやすい社会をつくっていくためには大切なのだということを改めて実感できました。
- ・人権については、これまでの人権学習を通じていろいろなことを考えてきたけれど、人権意見発表会でたくさんの意見や思いを聞いて、新しい視点を得ることができました。自分の考えは間違っていないと思いつくことはせず、他者の意見を柔軟に取り入れていこうと思いました。
- ・人権、特に言葉を題材にしたものが多かったと感じます。「言葉は見えないけれど、取り消すことができない」という一節が心に残り、私ははたとさせられました。何気なく、でも相手を不快にさせてしまったら、もう取り返しがつきません。このことを心に留め置いて、今回の人権意見発表会で得たものを、自分にとって意味のあるものにしていきたいです。

62・64・52・54ホームルームの人権委員の皆さんの意見はどうでしたか？生徒の皆さんも、この機会に人権問題について考えたり、家族と話したりしてみてください。

この人権通信が、人権について考えるきっかけになればと思います。

